



# 越智 真南

MANA OCHI

Close-up  
Interview

(8月号 表紙の顔)

## 「プロボウラーの道を選択して 間違いではなかったです」

2018年のプロテストにトップ合格でプロの世界に飛び込んだ越智真南プロ。デビュー以来安定して成績は残しているものの、第1シード入りや初タイトル獲得などはいまだ果たせていない。自らの殻を破るべく、今生活のほとんどの時間をボウリングに費やしている。(PHOTO: 福地和男)



▲苦労した素手でのリリースにも、ようやく戦える手応えをつかんできた

### 国体にかけた7年間

高校3年時に地元・愛媛国体が開催されるという、運命的な巡り合わせがなければ、プロボウラー・越智真南はいなかったのかもしれない。

「もともと両親が趣味でやっていて、兄が始め、それにつれて私も10歳のころに始めました。その2〜3カ月後に小学校のホームルームで、7年後の愛媛国体に向けて県の強化選手募集というようなプリントが配られたんです。すでにマイボールを作って投げていた私は、優先して選んでもらいました」

中学時代は目立った成績はなかったが、高校1年時に、全日本高校選手権で5位、和歌山国体少年女子団体戦では、現在ナショナルチームに在籍する泉宗心音選手と組んで優勝、さらに全日本新人選手権(少年女子の部)でも優勝するなど、飛躍の年となった。

「最初のころは“国体って何?”って感じで、あまり実感がなかったんです(笑)。中学では吹奏楽部に入って、部活と両立しながらやっていました。切迫感が出てきたのは国体まで4年を切ってから。中2のころから死ぬ気で投げ始めました。その結果としてようやく成績がついてきたという感じです」

迎えた2017年の愛媛国体は、周囲の期待に押しつぶされそうになりながらも、少年女子個人戦で優勝の泉宗選手とワンツーフィニッシュ。団体でも2位に入り、地元貢献した。

「今までの人生でいちばん緊

張した期間でした。個人戦は、心音ちゃんと私と福岡の子の3人が僅差で最終ゲームを迎えました。最後に心音ちゃんが頭一つ出て、私も10フレのストライクで2位を確保できました。そのときは素直に心音ちゃんが優勝でよかったと思ったけど、そういう一歩引いた考えは勝負の世界では通用しないと、今になってみると思います。でもいろいろな思い出が詰まった国体でした」

### 未知のプロの世界へ

愛媛国体が終わったら、きっぱりとボウリングをやめるつもりだったそうだが、実際には異なる選択をした。

「やりたいことがたくさんあって、高校卒業後の進路をどうするか迷いました。でも考えているうちに、ボウリングを7年間やってきて、支えてくれた人、お世話になった人がたくさんいるなあと感じて、その人たちへの恩返しは、やっぱりボウリングで頑張っている姿を見てもらうことかなと思いました」

それまでプロボウラーに知り合いはいなかったし、プロアマの大会にもいちども出場したことがなかったが、卒業直後のプロテストに挑戦、見事51期のトップ合格で、未知の世界に飛び込んだ。

「最初のころは、周りに気を使うのに疲れて、試合どころじゃなかったですね」と振り返るが、デビュー6戦目のラウンドワンJPBA決勝大会では3位に食い込んだ。

「周りを見ないでレーンだけ

に集中していたら、ちょっとしたレーンの差や変化に気づけて、うまくアジャストもできました。でも、4人しか残っていないことに気づいた瞬間にパニックになってしまい(笑)、それまでのボウリングができませんでした」

2020年からは補助器具の使用禁止が決定していたため、2年目の途中からは慣れ親しんだメカテクを外した。

「もうヘナヘナ状態で(笑)、本当にひどかったですね。これまでメカテクに頼り切っていたので、どうすれば自然なリリースができるのか、試行錯誤を繰り返しました。ああこんな感じがかなと思えるようになるまでに1年ぐらいかかりました。去年は、まだ再現性が低いなかで戦っていました」



▲「もう4年目?という感じで、めっちゃ早かったです」と、デビューからの道程を振り返る

### あの悔しさを力に

今年6月の新人戦は、4位で決勝に進むと、決勝トーナメントでも危なげなく優勝決定戦まで勝ち進んだ。その優勝決定戦の相手は、今年のプロテストをトップ合格、これがデビュー戦の17歳・中島瑞葵。6フレから

のターキーで半マーク逆転しての10フレ勝負となった。

「いつもどおりのルーティーンでアドレスに入って、一呼吸置いてと、いい流れで投げられたと思います。だけどボールが手から離れた瞬間に、全然違うところに行ってしまった。“なんで?”と自分がいちばんびっくりしたし、今でも原因を整理できていない感じです。悔しくて引きずりました。センターでも皆さんから『惜しかったね』『あの投球はどうしたの?』って声をかけて下さるんですけど、そのたびに心の中で泣いていました」

今は故郷を離れ、東京に拠点を移している。

「母はやりたいうようにやりなさいという感じだったけど、父には反対されました。社会経験もない田舎娘に東京で一人暮らしをさせるのは、心配になりますよね。でも今は家族で応援してくれています。おばあちゃんは、私が負けた新人戦のコーチアップの画像を、今でも毎日観ているって言っていました」

現在は常に頭の大部分をボウリングが占めているという。「とくに意識が変わったのは去年の秋ぐらい。アスリートとしては当たり前なことだけど、ジムに行ったり、好き勝手食べていた食事にも気を使うようになりました。休みの日も、仕事休みか、じゃあボウリングに行こうってなりますね(笑)」

手にしかけていた初タイトルは、最後にすると手からこぼれ落ちたが、今はあの傷心からも立ち直り、しっかりと前を向いている。

「あれがあったから…といえるように頑張ろうと思います。もちろん初タイトルを早くという気持ちは強いけど、私が目指しているところはそこではなくて、もっともっと高いところに目標を置いています。そのためには、投球精度やメンタルの強化など、克服しないといけない

課題は多いです」

そしてプロの道を選択したこと、後悔はないと語る。

「トーナメントのきりっとした空気のなかで投げるのも好きだし、そこに向かって普段の頑張っている期間も充実感があります。そしてお客さまとお話ししながら、ボウリングの楽しさを共有できることが、何より幸せです」

(取材協力: 平和島スターボウル)

### 越智真南プロと一緒に投げよう! 近日開催予定のチャレンジマッチ

- 8月12日  
東京・平和島スターボウル
- 8月13日  
東京・平和島スターボウル  
(ファンクラブチャレンジ)
- 8月15日  
埼玉・春日部ターキーボウル
- 8月21日  
東京・立川スターレーン
- 8月22日  
東京・平和島スターボウル  
(姫路プロチャレwithおちまな)
- 9月4日  
岡山・コーシンボウル
- 9月5日  
兵庫・青山スポーツガーデン



おちまな / 2000年2月12生まれ、愛媛県出身。右投げ。2018年プロ入り(51期/ライセンスNo.568)。20・21年ランキング28位(六甲クイーンズオープン終了時点)。所属・平和島スターボウル